

講義名	言語と社会（10）		
科目区分	グローバル		
担当教員	池田 俊之 / 森 宏子		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

本学独自のCan-do リストに基づき、英語と中国語の基本的な定型表現を身に付けることによって、異文化と多様性を理解する態度・姿勢を育成します。全15回の授業を前半7回、後半8回に分けて、英語と中国語の二言語を学習します。なお、クラスによって、英語 中国語あるいは中国語 英語と授業進行が異なります。英語 中国語のクラスは後半の中国語が8回、中国語 英語のクラスは後半の英語が8回となります。

到達目標

英語と中国語の二言語双方の基本的な特徴と構造を理解し、短期間、海外に滞在することなどを想定しながら、ホテル・食事・買い物などの実際の場面で初歩の会話ができるようになることを目指します。

提出課題

適宜指示します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

小テストは次の授業で返却し、簡単に講評を行います。（中）

評価の基準

その内訳としては、以下の通り（英・中とも同じ）：
クイズ（毎回授業で実施する小テスト）50％、授業参加度・授業姿勢50％

履修にあたっての注意・助言他

授業には積極的に参加してください。授業中のいねわりやスマホの操作など無気力な授業態度は大きな減点対象となります。テキストは必ず各自購入し、初回の授業（2回目：4月15日）に持参してください。テキストを持参しない人は、最も大きな減点となります。なおテキストの引き取りはクラス分け発表後にしてください。

教科書	.言語と社会.	500

プリント資料及び参考文献

必要に応じてプリントを配布します。参考文献は適宜指示します。

授業計画

1. ガイダンスとプレイズメントテスト（英語のみ）
2. 英語Unit 1: Introducing yourself
3. 英語Unit 2: Talking about interests and hobbies
4. 英語Unit 3: Airport and immigration
5. 英語Unit 4: Hotel
6. 英語Unit 5: Fast food restaurant
7. 英語Unit 6: Shopping
8. 英語Unit 7: Directions
9. 中国語 第1課「中国のひと・くに・ことば」：簡体字・ピンイン / あいさつ表現 / 発音（声調）
10. 中国語 第2課「中国語のしくみを知る」：SVO構造と否定文 / 発音（母音）
11. 中国語 第3課「自己紹介」：疑問文 / 発音（子音1）
12. 中国語 第4課「あれは何ですか？」：指示詞 / 疑問詞疑問文 / 発音（子音2）
13. 中国語 第5課「きょうだいはいいますか？」：ある・ない / 数字を使った表現（日にち、年号） / 発音（複母音）
14. 中国語 第6課「どこへ行くのですか？」：所在表現 / 数字を使った表現（時刻） / 発音（鼻母音）
15. 中国語 総復習：ややボリュームのある文を読む / 自己紹介文を作る

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（英・中共通）
予習として、次の授業で学ぶユニット（課）に目を通しておきましょう。授業内容を知り、自分の分かるところ分らないところを事前に把握しておけば、次の授業にスムーズに入っていけますし、授業の理解度が格段にアップします。
（英語）
授業前に、各ユニットの重要単語の意味を調べて来てください。（2時間）
授業後は、各ユニットの小テストが毎回あるので、復習を行ってください。（2時間）
（中国語）
中国語は、大半の人にとって初修の言語ですから、学ぶことすべてが新しく、最初は覚えることがたくさんあります。中国語は予習はそこそこ、復習はしっかり重点的に行ってください。とくに単語はその都度しっかり頭に入れていく必要があります。毎回単語帳（ワークシート）を別途配布します。単語帳や授業中にできなかったドリルは宿題とします。（予習：1時間半～2時間、復習：2時間～2時間半）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考